

令和3年度埼玉県健康長寿計画推進検討会議の意見一覧

議事

(2)埼玉県健康長寿計画(第3次)の進捗状況について

No.	委員名	意見等	回答
1	大木委員	計画に関する値が得られない場合の評価方法や解釈について検討必要と考える。(新型コロナウイルス感染症拡大により、国民健康栄養調査等がR2,R3年度は中止となったため)	埼玉県健康長寿計画(第3次)の指標については、現状国民健康栄養調査のデータを使用しています。 御指摘のとおり令和2年度及び令和3年度については、国民健康栄養調査が実施されていないため、本計画の指標等に関する評価方法等については、委員の皆様と御相談した上で検討してまいります。
2	緒方委員	生活習慣の改善について、いくつかまだ不十分な点があるように思われます。 地域格差も存在するようなので、地域特性に応じたアプローチが求められると思う。	生活習慣の改善に関する指標については、計画策定時と比較し現状値の方が悪化してしまっているものもあります。 また、御指摘のとおり地域特性に応じたアプローチも必要です。 県では、地域・職域連携推進事業において各保健所ごとに市町村や企業と連携し、地域における健康課題を共有し、改善に向けた取組を実施しております。 こうした取組を通じ、今後も各地域における健康課題へ対応してまいります。
3	加藤委員	資料3-2「歯・口腔の健康」60歳代における咀嚼良好者の割合の増加について 2016年→2019年で1.2%増加なので、2023年目標値までにひらきがあり、目標値に近づけるのか気になる	今後、目標値に近づけるよう、研修事業などの機会を捉えて調査の重要性について周知啓発を図るとともに、県民一人一人の歯・口の健康意識の向上や健康行動を支援し、咀嚼良好者の割合を含めた全体の底上げを図る取組を進めてまいります。
4	小宮山委員	糖尿病と歯周病に係る医科歯科連携協力歯科医療機関数を増加させるように、歯科医師会でも研修会等を実施しているところ です。Webなどお積極的に行っていききたいと思います。	御尽力いただきありがとうございます。 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
5	澤田委員	2023年度の評価については、新型コロナ感染症拡大の影響を大きく受ける項目があると思われれます。大きく影響を受けることが想定される項目については2段階(2019年・2023年)で評価することをご検討いただきたいと思います。 高齢者(男女)の歩数が大きく減少していることを危惧しています。高齢者に対して歩行を奨励する取り組みが必要だと思われ ます。	健康長寿計画の最終年である2023年度の評価については、今後、委員の先生方に評価方法について御相談した上で検討してまいります。  歩数については、ウォーキングや特定健診の受診などでポイントをため、抽選により賞品が当たる「埼玉県コバトン健康マイレージ」を実施しています。 今後も、高齢者を含め県民の方々が楽しみながらウォーキングなどの健康づくりに参加していただけるよう取り組んでまいります。
6	生井委員	資料3-1の3(1)について、食習慣が要因となって指標が計画策定値を下回っている結果になっていると感じました。 食生活、食に関する行動様式が改善されるよう、周知、啓発などの更なる取組が必要ではないかと感じました。	御指摘ありがとうございます。 目標値の達成に向け、食に関する取組の大切さについて、県の「健康づくり協力店」事業等を通じ、飲食店、関係団体等に広めていくとともに、健康長寿サポーター等の草の根等な取組を含め、一体的な食育推進に努めたいと考えております。

(3) その他

NO.	委員名	意見等	回答
1	大木委員	埼玉県健康長寿計画P15のがんによる死亡率について計画の中で脳卒中等については年齢調整された値を指標にしているが、がんについては粗死亡率を用いている。埼玉県は全国的に年齢が若い県なので、年齢調整した値を用いる方がよいと考える。	御指摘いただきありがとうございます。 次期埼玉県健康長寿計画を策定する際に、御意見を踏まえ検討いたします。
2	緒方委員	様々な情報が適格に整理されている。	今後も、指標や様々な健康づくりに関する情報について整理し、お示しできるよう努めて参ります。
3	加藤委員	コロナの影響による高ストレスや外出機会の減少、新しい生活様式が健康に対しどのような数値になっているのか。また、そのような社会になることにより、今までの考え方や計画方法でよいのか議論する機会があるとよい。	新型コロナウイルス感染症流行による健康への影響については、来年度実施予定の国民健康栄養調査結果と、流行以前の数値と比較し、考察する必要があると考えます。 新型コロナウイルス感染症の流行を受け、計画の考え方等について今後どのようにしていくかは、現健康長寿計画の最終評価及び次期健康長寿計画の策定の際に検討してまいります。
4	澤田委員	書面会議ですと意見交換や質問が簡単でないことから、対面とオンラインを同時に行う「ハイフレックス会議」の実施についてご検討をお願いいたします。	御指摘いただきありがとうございます。 検討会議の開催方法については、ハイフレックス会議での開催が実現するよう努めてまいります。